

令和2(2020)年度第1回水工学委員会および幹事会

日時：令和2年6月4日(木) 14:00～16:30

場所：zoom

出席者：中北英一，清水義彦，二瓶泰雄，天野光歩，石徹白伸也，入江政安，大石 哲，小原一哉，片山直哉，川越清樹，川村里実，佐藤隆宏，佐山敬洋，杉原裕司，炭田英俊，武田誠，谷口健司，知花武佳，手計太一，藤原賢也，堀 智晴，溝口敦子，三輪 浩，森本 輝，芳村 圭，渡邊明英，赤松良久，浅沼 順，泉 典洋，梅田 信，風間 聡，鼎信次郎，重枝未玲，竹林洋史，田中賢治，田中茂信，田中規夫，椿 涼太，戸田祐嗣，中山恵介，宮本仁志，森脇 亮，矢野真一郎，山田朋人，吉田圭介

欠席者：寶 馨，辻本哲郎，中川 一，道奥康治，山田正，内田龍彦，諏訪義雄，田端幸輔，萬矢敦啓，立川康人，横山勝英

記録者：谷口健司(以上，敬称略)

0. 清水委員長挨拶

今回のコロナ禍の中でも水工学委員会の活動を低下させず今後も継続していきたいとのことと，水工学 r 論文集への投稿締切が一カ月遅れにも関わらず，編集幹事長の努力で実現に向けて進んでいることに感謝するとの挨拶があった。

《報告事項》

1. 令和1-2年度水工学委員会構成と年間スケジュール(幹事長) 資料1 p.1
 - ・二瓶幹事長より，委員会構成についての変更点と，年間予定表について延期やコロナ対応についての説明があった。

2. 令和2年度水工学に関する夏期研修会の延期について(高知，幹事長) 資料2 p.5
 - ・二瓶幹事長より，高知で予定されていた水工学に関する夏期研修会について今年度は開催せず，次年度に延期すること，開催場所は引き続き高知にお願いすることが報告された。合わせて，延期決定までの経緯が説明された。

3. 水シンポジウム2020inぐんまの延期について(幹事長) 資料3 p.7
 - ・二瓶幹事長より，今年度開催予定であった水シンポジウムinぐんまが延期で予定されていることが説明された。また，延期後の開催時期は2021年8月26日・27日とすること，群馬の次の開催地としては山形を予定しているが，それについても一年ずらす方向で調整していることが説明された。

4. 部会・小委員会・関連委員会の活動報告及び活動計画 資料4 p.11
 - ▶部会：水文部会(田中賢委員，資料4-1)
河川部会(渡邊委員，資料4-2)
基礎水理部会(杉原委員，資料4-3)
環境水理部会(矢野委員，資料4-4)
 - ▶小委員会：水害対策小委員会(赤松委員，資料4-5)
流量観測高度化小委員会(椿委員，資料4-6)
河道管理小委員会(田中規委員・戸田委員，資料4-7)
 - ▶関連委員会：IAHR Japan Chapter，IAHR-APD2020札幌(田中規委員・川村委員，資料4-8)
河川懇談会(道奥座長欠席(代理 清水委員長)，資料4-9)

各部会長，小委員長および関連委員から，各部会，各小委員会，関連委員会の活動報告と今年度の予定に関して説明があった。詳細は資料のとおりである。

また、各部会等からの報告に対して、以下のような意見交換があった。

- ・河川部会：泉委員より、論文集発刊に関連して、ディスカッションの機会が失われたことへの対応について質問があった。論文集を通じた質問の受付などを検討してはどうかとの提案があった。
- ・水害対策小委員会：泉委員より、今年度の水害発生時に、どのような形で調査を実施するか質問があり、赤松委員より7月に開催予定の小委員会で検討する旨の回答があった。
- ・河川懇談会：中北顧問より、国との河川技術評価委員会の中で交流・参加できるような枠組みを再構築することを目指しているとの説明があった。

5. 水工学委員会の活動度評価（幹事長）

資料5 p.45

- ・二瓶幹事長より、水工学委員会がAランクの評価であり、この評価に伴って調査研究費の2020年度配分額が98.6万円となったことが報告された。また、出版物の購読者や行事参加者が増加していることが紹介された。

6. その他

- ・インフラメンテナンス総合委員会委員選出（戸田委員）
戸田委員より、笹子トンネル事故以来、特別委員会を設けて進めてきたインフラメンテナンス強化のまとめが近々出ることから、体制の見直しを行うこととなったことと、水工学委員会からは戸田委員が参加する旨の説明があった。また、今後の業務量等の状況によっては、水工学委員会に相談したいとの依頼があった。また、6/15にオンラインでの会議（報告会）開催が予定されているとの紹介があった。
- ・日中シンポジウム（梅田委員、矢野委員）
梅田委員より、学会100周年から開催されてきた日中シンポジウムについて、水系のテーマで準備を進めてきたが、昨今の状況を鑑み延期することとなったことと、また変更後については決まり次第情報共有する旨報告があった。

《協議事項》

1. 令和2年度第65回水工学論文集査読スケジュール・編集作業（鼎編集幹事長） 協議資料1 p.1
 - ・鼎編集幹事長より、資料を基にスケジュールや論文公開方法について説明があった。例年より一か月短い編集スケジュールとなるが、CD-ROM作成の後ろ倒しや論文修正期間の変更により講演会は当初の予定通りの開催を維持できるとのこと。また、編集作業の進め方についても説明があった。採択された論文については、講演会前後のみWebで公開し、CD-ROMの作成と配布を講演会後にしたいと提案があり、いずれも承認された。
 - ・アウトスタンディング・ディスカッション賞の受賞候補者について提案があり、承認された。
 - ・査読者選定の際の他グループへの依頼については、鼎編集委員長を通して調整とするが、委員間で直接調整し、のちほど編集委幹事に報告するのでも良いとの説明があった。
2. 令和2年度以降の水工学講演会の開催について（手計委員、森脇委員、幹事長） 協議資料2 p.8
 - ・手計委員より、開催準備状況により説明があった。
 - ・二瓶幹事長より、講演会の開催方法について、①通常開催、②オンライン開催、③通常開催とオンラインの併用の可能性があるが、執行部案としてオンライン開催が提案され、承認された。
 - ・オンラインによる水工学講演会の実施については、水工学オンラインWGを中心に検討するとの説明があった。

- ・今年度オンライン開催とした場合の次年度以降について、
 - ①2021年度：富山，2022年度：愛媛
 - ②2021年度：愛媛，2022年度：富山
 の2案が示され，①案とすることが承認された。
 - ・2021年度に富山で開催する場合の日程については，12月8日～10日を候補とするが，他の予定との重複等ないか確認する期間を会議後一週間程度もうけることとした。
 - ・開催時期の重複が懸念されるAGUについては，確認したところ重複はないとの説明があった。
3. 水工学オンラインWG立上げ，水工学オンライン連続講演会の開催（幹事長，溝口委員） 協議資料3 p.19
- ・二瓶幹事長より，新たに水工学オンラインWG立上げの趣旨について説明がなされ，承認された。
 - ・本WGでは，水工学オンライン連続講演会を開催し，研究交流の活性化を図ることと，水工学講演会のオンライン開催のためのノウハウを獲得・蓄積するとの趣旨説明があった。
 - ・水工学オンライン連続講演会の開催要領案の提案がなされ，了承された。
 - ・溝口委員より，オンラインでの応用力学シンポジウムで概ね好評であったとの報告があった。部会活動や小委員会活動ともノウハウの共有は可能なので，研究活動に活用して欲しいとの説明があった。
4. 令和4年度水シンポジウム2022inやまがた（幹事長，風間委員） 協議資料4 p.21
- ・二瓶幹事長より，群馬の次に山形で開催予定であった水シンポジウムについて，群馬での開催が2021に変更とされたことに伴い，山形県で2022年開催を進めているとの説明があり，承認された。
5. 第25回水シンポジウム2021inぐんまの実施体制（幹事長） 協議資料5 p.24
- ・水シンポジウムの担当は，執行部切り替え時期を跨ぐ場合，従来であれば次期執行部となるが，二瓶幹事長より，第25回水シンポジウム2021inぐんまについては，スムーズな開催を実現するため現執行部が担当とすることが提案され，承認された。
6. 水理公式集例題集編集小委員会の立上げの提案（清水委員長） 協議資料6 p.25
- ・清水委員長より，水理公式集例題集編集小委員会を立上げること，その委員長に泉委員が就任することが提案され，承認された。
 - ・泉委員を中心として，水理公式集例題集の編集方針について，調査・検討することとなった。
7. R2年度第二回水工学委員会の委員長選挙方法（幹事長） 協議資料7 p.32
- ・二瓶幹事長より，第二回水工学委員会がオンライン開催になることに伴い，委員長選挙をWEBで実施する必要があることが説明された。そのため，今回のコロナ禍を踏まえて付則の変更（社会情勢に応じてWebによる投票を実施する）について提案され，承認された。
8. 令和2年度の水工学委員会の予算について（幹事長） 協議資料8 p.29
- ・二瓶幹事長より，水工学委員会の予算状況について説明があった。今年度は各種会議に関する旅費が不要となることが想定されるので，有効活用して欲しいとの説明があった。今後，拡充支援金が確定次第，再度委員会に諮る旨説明があった。
9. 副委員長の役割（幹事長） 協議資料9 p.32
- ・二瓶幹事長より，4代前ほどから副委員長が不在となっている現状や，そのメリット・デメリットについて説明があった。今回は問題意識の共有にとどめ，継続審議とすることとなった。
 - ・大石委員より，以前開催していた水工学幹事会のような少人数で議論すると良いのではないかとの提案があった。

10. その他

○水工学論文賞選考委員会報告（鼎編集幹事長）

1. 令和元年度水工学論文賞，同奨励賞候補論文について
 - ・鼎編集幹事長より，令和元年度水工学論文賞，同奨励賞候補論文について報告があり，内規に則って，論文賞1名，奨励賞3名が定められた。

2. その他

以上